

施策番号	施策名	観光振興プロジェクト	基本的方向	まちの観光拠点である新嵐山を活用し個性を活かした観光地域をつくる		
			基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり		
4-3	主管課	魅力創造課	課長名	我妻 修一	内線	231
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針	対象	意図	結果						
豊かな自然や地域のおもてなしを通じて、「芽室町の個性を体感できる場」をつくるとともに、地域資源を活用した観光まちづくりを推進し、まちのブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客を促進する	町民・公共施設	・利用者数の増加 ・観光消費や物産購入につなげる	観光客の増による地域内経済の活性化及び魅力ある地域内資源の再発見による郷土愛の醸成						
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	策定時(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2024年度(目標)
① 新嵐山スカイパーク利用者数	実績数(年間)	人	488100	281257	273520	304414	6821	77872	513000
②									
③									
評価指標設定の考え方	年1%増加を目標とし、30年度から34年度までの5年間につき5%増で設定								

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算	2023年度決算	2024年度決算
施策事業費(千円)	111,026	109,826	117,676	82,141	104,984
人工数(業務量)	0.5176	0.5542	0.5103		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2024年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	・2024年度シーズンから新嵐山スキー場が再オープンし、冬季の利用が再開されたことから、前年と比較して成果は向上している。
②第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	・新嵐山スカイパークについては、令和7年度に策定する基本計画に基づく施設整備、オープンが令和9年度以降となる見込みであることから、第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略期間中の目標達成はできなかった。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	新嵐山スカイパーク運営支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	・新嵐山スカイパークはメモロスキー場の再オープンとともに、再生に向けたランドデザインの策定を行い、令和7年度の基本構想、基本計画の策定に向けて取り組んだ。 ・令和6年5月に「芽室町観光ビジョン」を策定、観光振興の方向性を整理し、観光フォーラム開催などを通して地域一体の政策推進を図った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(総合戦略策定時との比較)

担当課 評価	・町の観光拠点である新嵐山スカイパークの休業が、町の観光振興に与える影響は極めて大きく、利用者が大幅な減となるなど、計画策定時と比較して後退したと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果					

A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した
D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く 状況と今後の予 見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが明け、観光業の回復、国内・海外の観光客の動きの加速、復調が見られる。令和6年度に策定した「芽室町観光ビジョン」に基づき、芽室町観光物産協会と連携した取り組みを加速化させるとともに、日高山脈襟裳十勝国立公園。観光政策の取り組みが、町民にどのような恩恵があるのかロジックの明確化、整理が必要である。 ・新嵐山スカイパークは再生に向けて、ランドデザインの策定(R6)、基本構想及び基本計画の策定(R7)を行うが、町財政への影響等をふまえ、整備する機能や規模を整理する必要がある。 ・メムロススキー場は令和6年度及び令和7年度はプレオープンと位置付け、令和8年度の本格的な再オープンに向けて、リフトや圧雪車等の計画的な修繕を行うが、いずれも老朽化が進んでいることから、基本計画において、更新した場合との費用の比較など、町財政の負担軽減が可能な手法を検討する必要がある。
-------------------------	---

この施策に対して 住民・審議会・議会 からどのような意 見や要望が寄せら れ、どのように改 善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新嵐山スカイパークは観光拠点であるとともに、町民の憩いの場であり、再生にあたっては、町民が利用しやすい施設、環境などが望まれている。 →ランドデザインでは、新嵐山スカイパークの再生を町民の皆さんの福祉の増進につながるよう取り組むこととしており、今後の基本計画策定においても、これらの意見も取り入れながら、取り組む必要がある。
--	--

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・「芽室町観光ビジョン」に基づき、芽室町観光物産協会と連携したより一層の取り組み強化が必要である。また、日高山脈襟裳十勝国立公園の活用、連携した商品作成、イベント開催など、地域内外へのPR活動を推進する。 ・新嵐山スカイパークは観光の拠点であるとともに、町民の憩いの場としての活用の要望もあることから、再生に向けては、それらの要望や町財政への影響もふまえ、整備する機能、規模などを基本計画において検討する。また、ランドデザインにおいて定めた民間活用ゾーンについては、民間活力の活用について令和8年度以降に希望する事業者を公募する想定である。 ・メムロススキー場は令和6年度、令和7年度はプレオープンと位置付け、令和8年度のオープンに向けて準備を進めるが、施設・機器の老朽化が進んでおり、計画的な修繕、更新について検討が必要である。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	重要業績評価指標等から、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組 に対する 意見	5に記載の取り組みを進めてください。						○

A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した
D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に後退したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組 に対する 意見	・町民に見えるよう、発信を進めていってほしい。						○

A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した
D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した